

【第4回 鳥インフルエンザ対策本部会議】12月6日

防災監／第1陣の職員から現場の状況を聴取した。改善点や困りごとを聞き取り、随時現地責任者に連絡し、現場での改善を繰り返してもらっている。

改善点の1つは、湿気が多く足場が悪かったため、石灰をまき足場を固め歩きやすくした。また、殺処分のための炭酸ガスを固定せずに、適宜移動できるようにした。

また、埋却処分のフレコンバックの作業が、フォークリフトが1台だったため、はかどらなかつた。JAさんの協力を得、台数を増やし作業スピードを上げた。

また、現地の防疫の専門家が鶏舎の作業場所を見回り、作業の問題点を聞き取りながら改善した。現在の進捗状況は70%ほど、15時現在の数字はまだだが、鶏舎7棟のうち3棟を終了した。現場の意見が各現場で反映され、第3回対策本部会議から相当の進捗が図られた。

農林水産部長／処分羽数は、2万1,330羽、進捗率は71.1%。母数は3万羽で計算した。飼養羽数は確定次第、変更する。

埋却処分の状況は、今朝6時35分から開始し、フレコンバック102袋を埋却溝へ投入した。

現地防疫作業の動員数は、県が577人、市町が27人、JAが8人、建設業協会が46人、計658人。第2クールまで進んでいる。

消毒ポイントの設置は、前回の対策本部会議から変更はない。

鳥インフルエンザ発生原因究明のため、国が調査チームを派遣し疫学調査を実施。本日から発生農場及び周辺環境の現地調査を開始した。

また、環境省が発生地点から半径10km圏内を野鳥の監視重点区域に指定し、野鳥の重点監視を実施。鳥獣保護管理員及び県職員が、ため池や川など野鳥が多く飛来する場所での死亡野鳥の有無を監視する。

防災監／15時現在の殺処分の累計が2万6,000羽になった。鶏舎の7分の4が終了し、全体の90%まで進んでいる。

知事／90%とは、早く進んでいる。

防災監／現場の動員者の意見を、現地対策本部の職員が聞き、現場責任者に連絡を取り改善した。9時時点での進捗状況は厳しいものだったが、若い職員からの改善提案を現場がすぐに組み替えたことが大きい。

知事／危機管理の鉄則は、実態に合わせて修正していくこと。現場での尽力がありがたい。殺処分処理の終了宣言は、今晚早いうちにできそうか。

防災監／殺処分は、2時間後には終了する見込み。その後、卵と餌を埋却する。埋却後、鶏糞に石灰をまき消毒する。

知事／第3クルールのチームは、次の措置を一緒に行うのか。

農林水産部長／現在200人派遣しているが、縮小するのか。

防災監／殺処分は終了見込みが立ったので、40人縮小し160人にしたい。

知事／72時間を目標にした防疫措置も前倒しできそうか。

防疫監／大きく前倒しできそうだが、まだ見込みは立たない。

農林水産部長／殺処分の終了時間は、対策本部でも確実に把握したい。

防災監／殺処分のめどが立てば直ちに連絡し、共有する。卵、肥料は大量なため、どの程度短縮できるかは不明。

知事／坂本副知事、小松市長に感謝する。危機管理対応は現場が命だ。今回は、現場に行った皆が問題意識を持ち、縦の連携ができた。この危機管理チームが、さらに強みを増したといえる。敬意を表したい。

また、建設業協会、JAから多大な協力を受けた。昨日の早い段階から準備活動をしていただいた。佐賀県が困ったときに、オール佐賀・チーム佐賀で対応できるのは我々の強み、改めて感謝申し上げたい。

現在9割を超える殺処分が完了した。終了見込みまで2時間程度。その後は埋設、現場の消毒などがある。今夜、対策本部会議を開き、見通しも含め整理したい。

鹿児島県では6回目が発生したとの情報がある。次回会議では、連担の程度などを教訓に、佐賀が1回で終わるよう、今後の予防策も併せて展開したい。